

## 2 各小中学校 学校課題

### 下野市立薬師寺小学校

#### 1 学校課題 「学び」を中心とする授業の創造(3年次)

～聴き合う つなぐ 学び合う 2013～

#### 2 研究計画

##### (1) 研究の方針

- ① 「学び合う学び」を追求し、児童が学びの手応えを感じる授業作りを目指して
  - ・一斉授業中心から協同的な学びの導入(教師は知識の伝達から授業のファシリテーターに)
  - ・児童の「学び」(自分の対話・友達との対話・モノとの対話することで成熟する)を生み出す
  - ・教室に「聴き合う関わり」を形成する(学び合う関わりづくり)
- ② 教師の専門家としての仕事率(授業、授業準備、教材研究、研修)の向上を目指して
  - ・教師が自分の授業を開き、全ての教師が研究を共有する(協同的な学び)
  - ・いい授業をつくるのでなく、一人一人の学びを実現し保障することに重きを置く
  - ・授業検討会の充実により、授業研究の真の深まりを期待する(振り返り)
  - ・各個人の研究テーマを設定し、個人研究を進める
- ③ 「学び合う学びを高める」聴き合う関係の育成と学びの質を高めるみとりと支援を目指して
  - ・教室に「聴き合い・学び合う関わり」を形成する
  - ・個と個の「つなぎ」、個と集団の「つなぎ」への支援に力を入れる
  - ・思いや願い・考えを、「つなぎ・もどす」支援の研究
  - ・授業の振り返り・検討会の振り返り・研究の振り返りの充実

#### 3 研究内容

##### (1) 研究の方法

- ① 個人研究を進める  
年間を通じて1人1研究を実践する。テーマは自由として、個々の教員が教育のプロとして自分の資質を高め、教育の専門性を高める目的で自由に設定し、1年間追究する。
- ② 研究授業の質を高める  
原則として研究授業公開は、1人1回実施する。「学び合う学びを高める」ことを前提に、個と個の「つなぎ」、個と集団の「つなぎ」への支援に力を入れる。
- ③ 授業検討会を充実させる  
授業検討会はS&Uコラボ事業を活用し、外部指導者(大学教授)の指導を受け学びの質を高める。検討会の方法は、各コーディネーター学年が工夫し、KJ法などを取り入れ、振り返りを重視する。



##### (2) 研究の実際

- ① 実践研究授業  
教員は年間一回授業を公開することを基本に研究授業を実践し、S&Uコラボ事業として宇都宮大学の先生と市教委指導主事の先生に直接指導を受けるとともに授業を開くことで学校全体の学びを深める。
- ② 活動例

日時	形態	授業者	教科	授業	学年
4/17(水)	校内研修	学校課題研修	テーマ設定と個人テーマ決定		
5/15(水)	校内研修	本年度の重点	勉強会と検討会		
6/26(水)	要請訪問	川島 啓	算数	「円の面積」	6年
7/17(水)	S&U事業	野口貴史	社会	「市全体の様子」	3年
7/17(水)	S&U事業	白石孝子	音楽	「音楽作り 雨の音楽を作ろう」	6年

8/30(水)	校内研修	個人テーマ研究 中間発表			
9/4(水)	授業研修	関口 智央	国語	「詩を楽しもう」	4年
9/13(金)	S & U 事業	石田由起子	生活 単元	「学校を作ろう」(作品展に出品しよう)	なかよし
		宮本富士野	道徳	資料名「けんじのわすれ物」	4年
10/21(月)	S & U 事業	舘野 如美	音楽	いいおとみつけて	1年
10/21(月)	S & U 事業	北城 篤史	算数	単位量当たりの大きさ	5年
11/6(水)	授業研修	岩崎 美恵	国語	「友だちのこと、知りたいな」	2年
11/25(月)	S & U 事業 要請訪問	園部 幸男	理科	「電気で明かりをつけよう」	3年
		今城 生子	国語	「やまなし」	6年
1/22(水)	校内研修	研修の振り返り 研究の反省			
2/5(水)	校内研修	研究のまとめ 次年度の計画案			

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ① 「学び合う学び」の追究では、児童の聴き合う関係の構築により、落ち着いた人間関係が生まれ、学級が学びに向かう雰囲気が高まった。その結果、教室では、互いに認め合い、励まし合う良好な関係が生まれた。また、教師も常に穏やかに児童に語りかけ、児童に教える(教授)のではなく、サポート(支援)する関係が充実した。
- ② 「教師の専門家としての向上」への取り組みでは、授業検討会のコーディネートを通じてファシリテーターとして資質を高め、研究授業における授業構築では、「学びの質を高める」ことを目標に、課題設定の工夫・展開の工夫・学習形態の工夫など様々なアイデアが出され、実践する中で個々の能力も格段進歩した。特にS & U コラボ事業による、大学の先生からの指導は、目から鱗の内容ばかりで適切なアドバイスが効果的であった。
- ③ 本年度の重点項目である「学び合う学び」を支える「つなぐ」ことへの意識改革では、それぞれの教師が「教材と子どもをつなぐ」、「子どもと子どもをつなぐ」、「教師と子どもをつなぐ」ことで深く学習内容を理解し、一人ひとりの子どもが決して学びの外にいる状況を無くした。結果として、全ての子どもが学習から逃避することなく、自分で考え、友だちと協力し、教師の支援を求めながら、集団が一つの目標に向けて活動する姿が度々見られた。これにより、教室に「聴き合う関わり」を形成することができ、一人ひとりの「学び」が保証されることとなった。



### (2) 研究の課題

- ① 3年間の研究を推進する中で、「学び」についての漠然とした捉え方ができつつあるが、「学び」とは簡単に説明ができ、理解することができる容易なものでは無いので、職員間の理解には違いがあり、それぞれのアプローチに違いが生まれ、検討会などその視点がずれてしまうことがあった。結果として必ず検討会実施後、漠然とした疑問が生まれ、解決されないままに次が行われるといった悪循環があった。これは学びの共通理解と研究の成果が具体的に感じられなかったためと考えられる。今後「振り返り」を大事にして、成果を目に見える形にしていきたい。
- ② 「学び合う学び」の追究は授業の質を高めるものとなり、同時に教師の同僚性の高まりをもたらしたが、互いのよさを認め合う関係からは、切磋琢磨する価値ある同僚性までの高まりが見られなかった。これは互いの取り組みの具体的検証が曖昧で、他の実践を自分の実践に取り入れていく意識が薄かったためと考える。次年度は研究の検証に重きを置き、さらに系統性に踏み込むことで真の同僚性の高まりを目指していきたい。

